日本農業新聞　平成27年６月9日掲載

農業技術プリズム

日本農業新聞 6月9日

茶「きらり31」

やや早生で多収品種 各茶期とも品質優良

長崎県内での茶栽培面積は751㌶で、そのうち77%を「やぶきた」が占めています。この品種は、うま味と渋味のバランスが取れ、総合的に優れていますが、生産現場では偏った品種構成のため、摘採時期の集中や茶樹の老木化による収量や品質の低下が問題となっています。このため県では、他の優良品種への改植を推進しているところです。ここでは「やぶきた」に替わる有望品種として、注目している「きらり31」の品種特性について紹介します。

「きらり31」は、耐寒性が強く色沢が優れる「さきみどり」を母親に、早生でうま味が強く製茶品質が優れる「さえみどり」を父親として、宮崎県総合農業試験場茶業支場で交配、育成されたものです。その後、本県農林技術開発センター茶業研究室で２００６年から7年間、適応性検定試験を行いました。

品種特性としては、摘採適期が「やぶきた」より2、3日早い、やや早生の品種です。樹姿は中間型で、株張りが旺盛なため幼木時の仕立ては容易です。また「やぶきた」と比べて収量が多く、品質は各茶期とも優れます。アミノ酸が多く、タンニンが少なく、色沢、香り、水色、味など総合的に優れる品種です。市場ニーズに対応した高品質茶生産が期待されます。栽培上の注意点は、輪斑病には抵抗性がありますが、炭そ病には「やぶきた」と同等で弱いので防除が必要です。

「きらり31」は、やや早生種ではありますが、耐寒性に優れるので、防霜施設が整っている県内の茶産地で栽培が可能です。

（県農林技術開発センター　池下一豊）

「きらり31」の一番茶の生葉収量と茶成分・品質

年	品種名	生葉収量（kg/10a）	アミノ酸（D.B.%）	タンニン（D.B.%）	茶品質 注1）
2011	きらり31	373	4.1	13.4	37.5
	やぶきた	214	3.0	15.2	34.5
12	きらり31	414	4.3	12.8	38.5
	やぶきた	247	3.8	14.3	35.0

注1）茶品質：形状、色沢、香気、水色、滋味の各項目10点、計50点満点で評価